

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520401

研究課題名(和文) フランス近現代における知的伝統としてのネオ・ジャクソニズム的発想の研究

研究課題名(英文) Neo-Jacksonism as an intellectual tradition in Modern French Thought and Literature

研究代表者

田母神 顯二郎 (KENJIRO, TAMOGAMI)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：30318662

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は、フランス精神医学にみられるネオ・ジャクソニズム的伝統が、フランス近現代の<知>全体を貫く根本的な思考様式であるという視点に立ち、哲学や文学の領域におけるネオ・ジャクソニズム的発想を探り、その多面性と変遷を浮き彫りにしながら、新しい<知の系統図>を作成することを目指した。とりわけピエール・ジャネの理論を再検討し、それが内包する精神の<創造性>と<過去保持性>の問題をより普遍化したうえで、哲学ではメヌ・ド・ピランからベルクソンとジャネを経てドゥルーズに至る系譜を示し、文学ではボードレール、プルースト、ミショーにおける生成と存在の問題にネオ・ジャクソニズム的視点を応用し分析した。

研究成果の概要(英文)：Neo-Jacksonism is usually considered as an important tradition of French psychiatry. But it seems that neo-Jacksonian inspiration in a broad sense interpenetrates the modern French intellectuals and forms the basis of French way of thinking. We compared especially the psychopathological theory of Pierre Janet and the philosophy of Bergson from the neo-jacksonian point of view and placed them in the history of thought which extends from Maine de Biran to Deleuze. In the same way, we analyzed the texts of Baudelaire, Proust and Michaux from the neo-jacksonian point of view and examined the subject of Becoming and Being in these writers.

研究分野：フランス思想、文学、精神医学

キーワード：ピエール・ジャネ アンリ・ベルクソン ジル・ドゥルーズ アンリ・ミショー マルセル・ブルースト オートマティズム 時間論 フランス精神医学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年「解離性障害」の問題が多方面で注目を集めているが、それに伴いピエール・ジャネ(1859~1947)の先駆的業績を再評価する気運が国際的に高まっている。研究代表者は平成20年度科研費研究において、フランス精神医学、とりわけピエール・ジャネの理論に見られるネオ・ジャクソニズム的発想がボードレール、プルースト、ミショーなどの文学作品に極めて重要な視点を提供するものであることを示してきた。実際、こうした作家のテキストを分析する上では、フロイトやユングの無意識理論より、ジャネが提出した「解離」や「オートマティスム」、「多重性人格」などに関する理論の方がはるかに有効であり、少なくとも、精神分析理論をそのまま使うより、ジャネ理論を併用するほうが多くの発見をもたらしてくれるのである。

(2) そもそもジャネ理論はフロイトやユングに影響を与えただけでなく、同時代のベルクソン哲学とも多くの点で切り結んでいる。そして、ジャネとベルクソンの思想は共にメヌ・ド・ピランという淵源をもつ。またベルクソンから多くの影響を受けたことで知られるドゥルーズも、著書の重要な箇所においてジャネに触れている。このように、ジャネ理論はフランスの近現代思想におけるひとつの結節点であると同時に、文学史や哲学史においても大いなるミッシング・リンクとなっているように思われる。

## 2. 研究の目的

(1) それゆえ本研究は、ジャネという「忘れられた巨人」の全体像を引き続き追いかけると共に、彼の理論を同時代のフロイトやベルクソンの理論と比較考察し、その一方でメヌ・ド・ピランからドゥルーズにまで至るフランス思想の系譜に位置づけるという構想のもとに出発している。

(2) しかし、この作業を進める上では、ジャネ理論の中心特徴をなすネオ・ジャクソニズム的発想、とくに「創造性」と「過去保持性」、あるいは「解離」と「オートマティスム」などについての思考に着目し、それらがジャネ以前にどのような形で萌芽していたのか、またジャネ以後にどのような変容を遂げながら展開していったのかを追う必要があると考えた。それはとりもなおさず、近現代フランスの〈知〉全体を貫くひとつの根本的な思考様式、すなわち広い意味でのネオ・ジャクソニズム的発想の多様な変遷を明るみに出す作業でもある。

(3) 本研究は、このように平成20年度

研究を発展させる形で開始され、新たな仮説に従って、フランス近現代の文学・哲学・精神医学を視野に入れた、学際的な〈知の系統図〉を作成することを目指したものである。また、平成20年度科研費研究においては記憶や心的外傷の問題など「過去保持性」に関する考察に力点が置かれていたが、今回は、アール・ブリュット研究なども加えながら、精神治療と創造活動の問題にも焦点を当てることで、本研究を単なる理論的研究にとどめず、新たな社会的・実践的価値を生み出すものにしていきたいと考えた。

## 3. 研究の方法

(1) このような目的を達するため、研究代表者はこれまでの研究成果を踏まえつつ、1)国内外での新たな文献資料の収集、2)各資料の分析と考察、3)成果報告のための論文執筆といった作業を行った。具体的には、哲学領域では、メヌ・ド・ピラン、ベルクソン、アラン、メルロ＝ポンティ、サルトル、ドゥルーズなどのテキスト資料の収集と分析を新たに行い、精神医学領域では、クレランボー、ミンコウスキーなどのテキストを分析した。一方、文学領域においても、平成20年度研究で扱った以外の作家(ネルヴァル、シモン、デュラスなど)に当たると共に、プルーストとミショーについては、あらたに「生成と存在」というテーマと連動させながら彼らのネオ・ジャクソニズム的発想を深化させることを試みた。

(2) その一方、〈精神病理と創造性〉の問題を社会制度や医療制度の問題とともに具体的に検討するため、主としてフランスのアール・ブリュットや精神医療関係の施設を訪問し関連資料の収集にも当たった。パリのシャラントン病院、サルペトリエール病院、サン＝タンヌ病院をはじめ、ローザンヌの「アール・ブリュット・コレクション」、サン＝レミ＝ド・プロヴァンスにあるゴッホゆかりの精神医療施設などで調査を行い、またチューリッヒのブルクヘルツリ病院にも足を運び、先進的な数々の試みに触れた。

## 4. 研究成果

(1) まず、ジャネについては、従来のジャクソニズムからネオ・ジャクソニズムへの転換点という文脈の他に、ライブニッツやメヌ・ド・ピランに淵源する「微小知覚」という発想が、催眠療法の流れを経て、ジャネによるオートマティスム論へと集約される過程に着目し、この二つの系譜の結節点としてのジャネ像を「ピエール・ジャネと〈フランス流無意識〉」と題する論文にまとめた。

(2) その後、『記憶の進化と時間の概念』

など、平成 20 年度研究では手つかずだった後期の業績の分析を進めることによって、ジャンの時代毎の変遷を掴み、その全体像をネオ・ジャクソニズムの視点から人格論、記憶論、行動論、時間論などのテーマに沿って統一的に把握する目処を付けた。

(3) こうしてジャン理解が深まると共に、ジャンとベルクソンの関係という、これまで関心を持たれながら十分な研究がなされてこなかった問題についても取り組めるようになった。両者の関係は、少なくとも三つの時期(1900 年以前、1900 年代、1910 年代以降)に分けて考察しなければならず、どの時期においても極めて錯綜した状況にあるが、1900 年まで(つまり一種のオートマティスム論である『笑い』まで)については、一定の結論に達し論文の形でまとめた。また 1900 年代以降についても、バシュラールの著作(『持続の弁証法』など)を通じ、この時期以降顕著になっていくジャンとベルクソンの思想的差異を時間論における生氣論的態度と構成主義的態度の差異として示せるようになった。

(4) 一方、ミショーについては「断片」・「生成」・「ミュートス」・「パサージュ」といったテーマとネオ・ジャクソニズム的発想を結びつけながら、彼の特異なエクリチュールの在り方を分析し、「断片たちのミュートス(1) 初期ミショーにおける解離と生成のエクリチュール」・「断片たちのミュートス(2) 表層のエクリチュール」・「断片とパサージュ：ミショーとベルギー」という 3 つの論文にまとめた。

(5) また、(1) と (4) の成果を反映させた研究代表者の二つの論文を含む英語による論文集『*Fragments & Wholes : Thoughts on the dissolution of the human mind*』を編集し、刊行した(2013 年)。

(6) 以上の研究の結果、精神医学分野においては、メヌ・ド・ビランに端を発し、モロー・ド・トゥール、バイヤルジェ、ジャクソン、リボー、ジャン、ミンコウスキー、エー、ジャン・ドレイといった精神医に受け継がれていく(ネオ)・ジャクソニズムの系譜がほぼ明らかになったと考える。またフロイトやユングの思想の中にも、ジャン理論の創造的発展が見出せる。

(7) 一方、思想界では、ジャン同様、ビランの影響を受けたベルクソンにおいてネオ・ジャクソニズムの主題が別様に展開されているが、その反響はメルロ＝ポンティやサルトルらの現象学的理論においても、<開かれた未来>への志向を重視する新たな<統合>様式の提出といった形で観察される。一方、ドゥルーズは『差異と反復』

において<微小知覚>や<局所的自我>といった精神に関するジャンのモデルを採用しつつ<受動的総合>の根本的な役割を重視している。と同時に、ベルクソンに由来する<潜勢態・現勢態>という対概念を導入することで、還元主義的思考の限界を超えた新たな<生成>観および<総合>観(=統合観)を提出しているのだが、後にガタリと共に提出した欲望機械論や、オートマティスムへの積極的価値付けが示唆するように、ドゥルーズにあっては、ベルクソンの発想だけでなくジャンの発想をも指摘することができる。

(8) 他にも、言語学者ヤコブソンや考古学者ルロア＝グーラン、美術史家ユベルマンなどにも、(ネオ)・ジャクソニズム的発想が見いだすことができる。

(9) このように、(ネオ)・ジャクソニズム的発想をめぐる<知の系統図>は、次第にその全体像を明かしつつあるが、研究の過程で新たに浮上してきたのは、歴史社会的視点の重要性である。言うまでもなく、精神病理の問題においては個人的因子と社会的因子の双方が複雑に絡み合っているが、それらはまた一定の歴史性を持つものである。実際、精神の「統合・解体・再創造」を主題とする(ネオ)・ジャクソニズム的思考の発展と変遷は、19 世紀から今日に至る産業社会の加速的な変貌と連動する部分を持ち、このような社会的・歴史的「地」に置き直してみると、<知の系統図>はより立体的なものとなり、さらにその意義を増すものとする。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

(1) 田母神顯二郎「ピエール・ジャンと<フランス流無意識>」(『文芸研究』、査読有り、116 号、97-131 頁、2012)

(2) 田母神顯二郎「断片たちのミュートス(1) 初期ミショーにおける解離と生成のエクリチュール」(『L'Arche』、査読無、22 号、35-60 頁、2012)

(3) 田母神顯二郎「断片たちのミュートス(2) 表層のエクリチュール」(『L'Arche』、査読無、23 号、31-45 頁、2013)

〔学会発表〕(計 1 件)

田母神顯二郎「ジラル理論と統計学的人間」(Colloquium on Violence & Religion 国際年次大会、招待講演、2012 年 7 月 8 日、国際基督教大学)

〔図書〕(計 2 件)

(1) *Fragments & Wholes : Thoughts on the*

*dissolution of the human mind*, Kenjiro TAMOGAMI(author&editor), Masato GODA, Shoiciro IWAKIRI, Misako NEMOTO, Midori OGAWA, Hisashi FUJITA, Hironobu MATSUURA(author), Editions L'Improviste, 2013.

(2) 田母神顯二郎「断片とパサージュ：ミショーとベルギー」(岩本和子、石部尚登編著『ベルギーとは何か？：アイデンティティの多層性』、松籟社、124-140 頁、2013)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田母神 顯二郎 (TAMOGAMI KENJIRO)  
明治大学・文学部・教授  
研究者番号： 30318662

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：